

第 15 回東日本大震災 NGO 情報交換会

- ・日時：2011 年 7 月 19 日(火)15 時～17 時
- ・場所：早稲田奉仕園アバコビル 6 階 スカイラウンジ
- ・出席者：出席者リスト参照

議事録

1 JANIC からの情報提供

1.1 安全管理に関する注意喚起

JANIC 山口：残念なことに、JANIC の正会員団体の一つが、保冷車で輸送中に岩手県で交通事故を起こし、相手の方がお亡くなりになったことがあった。津波で信号が壊れ、コーナーにがれきが積みあがっており、見通しが悪かったことも原因。

同団体はその後の活動をどうするか検討。ご遺族や地域の方々と話し合い、活動を継続してほしいとの声があったため、基本的活動は継続するが、イベント等は自粛。

たまたまある団体で起こったことだが、震災後 4 か月経過し、疲労がたまってきたのと同時に、「慣れ」も生じてきたのかもしれない。特に普段車の運転をしない方は、運転しつつ仕事もするというので、疲労が溜まっていると考えられるため、注意してください。また交通事故に関して、車両保険加入の有無、運転手の技量と安全運転に関する意識、車両整備状況、一般的なスタッフの安全管理の 4 点について、点検・議論していただきたい。

ドライバーを雇っている団体はあるか？

- ・ホープワールドワイド・ジャパン；HWW（平山）：運転専門のスタッフがおり、現場でも（ボランティア活動はせず）運転のみに専念してもらっている。

JANIC 藤岡：本日出席されていない団体も多いため、別途メールでも注意喚起したい。

1.2 各県の概況：別添 1 参照

【JANIC 藤岡】

○岩手県（遠野）

- ・ 仮設住宅に関して、場所によっては交通の便が悪く、買い物や通勤不便。戸数の多い仮設には、行政がバス会社と話し合いルートを設ける等の対策が進んでいる。スーパーが移動販売車等で回っている箇所もあるが、地元商店との兼ね合いで実施できていない所もある。
- ・ 前回情報交換会で、ワールドビジョン・ジャパンが紹介されている「仮設のトリセツ」をご案内したが、行政では仮設住宅を出る際のマニュアルを作成予定。
- ・ 東大の高齢社会総合研究機構の研究チームが、高齢者が快適に暮らせるような工夫を加えた先進型モデル仮設住宅を遠野市に 40 戸建設、実際に入居が始まっている。玄関を向い合せにしたり、デッキを設けて段差を無くすなど、一般的な仮設にはない工夫を凝らしたモデルを目指し、また建物周辺をいかに活用するかという点についても工夫されている。（情報シートに資料添付。）
- ・ 緊急雇用対策の充実が課題。市町村が生み出す仕事は一過性のアルバイトが中心で、安定した雇用創出につながっていない。後継者問題も深刻で、例えば大船渡市漁協が開催した漁業就業支援フェアの参加者がゼロだったというケースも見られる。
- ・ 医療・衛生・福祉に関しては、熱中症等の暑さ対策や、炊き出しでの食中毒防止という特記事項がある。
- ・ 仮設に住む高齢者の外出機会の減少が問題になっており、様々な対策（お茶っこサロンなど）が試行されている。高齢者サービスに対応する生活相談員を県から配置予定だが、まだ雇用ができていない。

- ・ ウジ等の害虫駆除は、継続して行われている。
- ・ 震災孤児の親権や後見人（不足）に関するサポート体制の充実が課題。未成年後見人制度を含めた生活支援を進める予定。
- ・ 授業日数を取り戻すために、学校によっては夏休みを短縮して授業を行うところもある。仮設校舎の建設についても、用地確保が難しく、遅れている。
- ・ 岩手県の震災津波復興計画がウェブ・サイトからダウンロード可能 (<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?cd=32806>)。
- ・ 岩手県南部（陸前高田市・大船渡市・釜石市）の災害ボランティアセンターは、震災後初めてのお盆（8月13日～16日）は休みにする（帰省の増加もあり、静かに迎えたい）予定。遠野まごころネットもそれに伴い、ボランティア活動を実施しないこととした。

○宮城県

- ・ 衛生について、引き続き殺虫剤散布を行っている。
- ・ 7月17日にせんだい・みやぎNPOセンター等の主催のNPOネットワーク集会で助成団体の資金状況等の情報をシェア。
- ・ 仮設状況の報告。（資料参照）
- ・ 宮城県の復興計画第二次案についても、県のウェブ・サイトから閲覧可能 (<http://www.pref.miyagi.jp/seisaku/sinsaihukkou/keikaku/index.htm>)。
- ・ 同案に対する5回目の説明会が7月18日に終了。8月2日までにパブリックコメントを受け付け、9月の県議会定例会に提出予定。

○福島県

【JANIC 竹内】

- ・ 清掃/片付けについては、県内の社会福祉協議会の災害ボランティアセンター（DVC）が8月に向かって復興支援センターに移行。それに伴い、単純労働は減ってきている。ただし、緊急時避難準備区域に関して、避難している箇所の片づけは手つかずであるため、住民が戻られて初めて家屋内の泥出し等のニーズが発生する。そのようなケースには復興支援センターで引き続き対応することになっている。
- ・ 東電の仮払い補償金（7月15日の時点で一世帯100万円、半身75万円が支払われている）の追加金が、7月5日から順次発送されており、一世帯10～30万円ということ。内容については資料を参照のこと。
- ・ ファミリーマートは昨年より限界集落や買物弱者対策を実施するという方針をとっており、今回仮設敷地内に仮設店舗を設置（川端町）。海外の仮設には、多様な施設（食堂、診療所、図書館、礼拝所やパブ等）が自ずと建っていくとのことだが、日本も参考にできる。
- ・ 県の雇用創出基金事業のコンペがあり、うつくしまNPOネットワークが受託、市町村から依頼された復興事業に、被災者の中から約2000人を雇用するという計画を立てている。
- ・ 稲わらから高濃度のセシウムが検出されたため、それらを摂取した牛が内部被ばくし、全県で牛肉が出荷停止になっている。
- ・ 緊急時避難準備区域（20～30km圏内）が解除される模様で、線量調査と道路等ライフラインの復旧に向けた環境整備を実施中。
- ・ 除染活動が多様に行われていたが、どのような方法が最も望ましいのかということに関して、目下県が12億円程度の予算で大学に調査研究を依頼している。従来、一般的には高圧洗浄または表土を剥ぐ方法が推進されており、県の手引きにも照会されている。
- ・ ただし高圧洗浄については、除染福島ネットワークが反対を表明している。同方法では、自宅か

らは取り除けるが、他の場所に流すこととなり、河川や海水の汚染、ひいては農業への影響が懸念される。対策としては、イオン溶液やでんぷんなどで固めて剥がし、(東電に)返す、という茨城大学や日本原子力開発機構が試みている方法がある。除染福島ネットワークでは100円ショップで手に入るようなのり等を使う方法を提案している。

- ・ 福島では「原発ヒステリー」(怖いから逃げるというのではなく、あっても大丈夫だと思込む)傾向が見られる。風評被害も怖いため、放射能について発言するのを控えたり、原発や放射能という言葉を表だって言いにくくなっている。例えば、廃棄物に関しても、放射能汚染されたものと分かれば、収集拒否されるという危機感から、「除染」ではなく「清掃」と呼ぶなど。国レベルでもツイッターを第三者機関に委託して検閲する動きや、ネット検索すると政府の情報が最初に出るようにする動きもあるとのこと。一方で、実際に放射能の危険性が減っているわけではない。線量観測データが出ているが、放射線とどう向き合えばいいのか、住民の態度は混乱している。例えば先日、子供達がひまわりを植えるイベントがあり、多くの子どもたちが参加したが、除染のためにひまわりを植えるような放射能の強い土地で、そのような子供の活動は実際的には非常に危険だといえる。
- ・ NPO等の夏祭りも数々企画、実施されている。

・ JANIC 藤岡：質問・要確認事項等あるか。

- ・ 日本国際ボランティアセンター；JVC(清水)：海外の被災地では仮設住宅周囲に様々な施設等が出来てくるという話に関して、阪神淡路の際には保健所の規制が大変厳しかったということを目にしたことがある。実際に今般の震災で仮設周辺の店舗を出す際または移動店舗で活動する際の、地域・行政の反応について、何か情報はあるか。

→JANIC 竹内：次回までにファミリー・マートに状況を伺ってくる。

→ピースボート：阪神の時、ピースボートも大工ボランティアを募り仮設内に供給拠点の設置を検討していたが、敷地の問題で難しかった。それも踏まえて、今回は仮設に建設するのではなく、届きにくいところには、移動でのサービス提供にしようということになっている。

→JANIC 藤岡：ピースボートは、飲食関係でコミュニティキッチンを実施されていると理解しているが。

→ピースボート(合田)：コミュニティキッチンは、飲食の店舗というよりも炊き出しの一環。屋外で調理していたものを、敷地を借りて屋内で実施するようにしたもの。

1.2 JANIC 福島駐在拠点の開設について；別添2参照

【JANIC 藤岡】

JANICは、福島に駐在拠点を置くことになった。今後福島で活動される団体には、ご利用頂きたい。福島駅から10分程度で駐車スペースあり。その他、7月末に遠野連絡事務所駐在員が入れ替わる予定であるが、それについては追って連絡する。

福島駐在拠点の連絡先は下記のとおり。

《福島駐在拠点》

震災タスクコーディネーター 竹内 俊之

住所：〒960-8228

福島県福島市松山町127-1 メゾン信夫ヶ丘607

(福島駅からバス10分 国道4号線と松川が交差する右手前です。)

電話：090-1361-5979 E-mail: takeuchi@janic.org

1.3 その他

【JANIC 藤岡】

- ・ 東日本女性支援ネットワーク **Rise Together** と JANIC の共催で、「災害支援者のためのスキルアップ講座—ジェンダー多様性ガイドラインの活用で、脆弱な状況にある方たちへのサポート力を上げよう」を 7 月 23 日（土）に仙台で開催。参加費無料。関心をお持ちの団体にはぜひご参加頂きたい。お申し込みはメールにて仙台事務所の中森まで。
- ・ 遠野駐在事務所から提出あった、心のケアチームの地域ごとの活動報告をこの場で回覧する。

2 参加団体・組織からの活動紹介、情報提供

2.1 日本国際ボランティアセンター；JVC（清水）

宮城県気仙沼市、福島県南相馬市で活動中。気仙沼では、3 月下旬より行ってきた DVC 運営支援に 7 月一杯で区切りをつけ、その後地域に入って小集落の方と直接相談のうえ、多様な生活再建支援を展開していく予定。本日参加の山崎が、今後現場の責任者になる予定。南相馬では、引き続き災害 FM の運営支援を続けていく。

2.2 JICA 地球ひろば（平田）

東松島市に拠点を置いて活動予定で、現在 8 月 18 日から委嘱開始予定で復興における行政と地域住民のコミュニケーション支援活動を行う市民参加調整員を公募（http://partner.jica.go.jp/main_out/servlet/CTRL?NEXT_PAGE=/TI/TI_details.jsp&TAL_NO=102003004110035）している。地球ひろばではこれら調整員に対するオリエンテーションを開催する。

2.3 東京英語いのちの電話；TELL（大滝）

引き続き、サイコロジカル・ファーストエイドの研修を実施。5～6 月は研修リクエストがそれほど多くはなかったが、7 月より要望が増え、盛岡・仙台・福島にて、6 回程度を開催。対象は、いのちの電話相談員や難民を助ける会等。

2.4 AmeriCares（櫻井）

主に保健医療分野で、資金・物資の援助を行ってきた。緊急フェーズが終わり今後リハビリテーションに入るに当たって、新しい助成金の募集を 8 月より開始予定。対象は保健医療分野で、特に医療系、デンタルクリニックやナーシングホームの補修・保全、巡回チーム、心のケア等に対する助成金として、三県を中心に進めていきたいと考えている。詳細は次回にお知らせしたい。

2.5 (株)アサツー・ディー・ケー；ADK（河中）

広告会社。企業からの依頼に応じて震災復興活動の企画・提案等の業務も実施。単独では、被災地で自社のキャラクターグッズを寄付する等の活動を実施。

2.6 ピースボート（合田）

宮城県石巻市で活動。現在までに派遣したボランティア数は 4,500 人を超えた。また、日割りで数えているボランティアセンターへの派遣人数は 2 万人を超えた。

7 月 31 日と 8 月 1 日で川開き祭りがあり、石川さゆりさんも来るということで、大変な盛り上がりを見せるだろうと予想される。商工会が中心になって行っているが、ボランティアも協働で進めていく予定。

地元の産業再生支援にも力を入れており、雄勝地方の石（瓦や刺身皿等へ使用される石）を拾って現地の職人に加工を依頼している。石拾いボランティアも募集予定。

ピースボートで派遣しているボランティアに学生が占める割合は1割を切っている。ボランティアに行きたいが学校の授業との両立が難しくて行けないという声を学生から聞くため、大学とのタイアップも検討したい。それに関連して、学生向けのイベントを7月20日(水)にJICA地球ひろばで開催。

加えて、福島県南相馬市の子ども達50人が乗船予定の船が世界一周に向けて7月19日(火)に出航。子ども達は空路でベトナム入りし、そこから乗船してシンガポール、スリランカ等に寄港し、スマトラ地震・津波の被災者と交流したり、ヒロシマ・ナガサキの被ばく体験者の話を聞く等の多彩なプログラムに参加する。8月初旬帰国予定。

また、閉ざされた中でエネルギー関連の決定がなされてきたということを受け、より開かれたオープンな議論の場を設けるという趣旨で、飯田哲也さん・枝廣淳子さん・小林武史さん・ピースボートの吉岡で「みんなのエネルギー環境会議」を長野や東京等で展開予定。

2.7 グッドネーバーズ・ジャパン (東江)

岩手県大槌町を中心に活動。大槌川には毎年鮭が遡上してくるのだが、その河川の清掃を行うボランティア・ツアーを企画。地元DVCと団体の共催で、週末(金曜夜から月曜朝まで)ごとボランティアを四次にわたり派遣、7月18日に帰還したグループで終了。各回につき100人程度の参加があった。その他大小のイベントを実施。

また現場のスタッフとの話より、多数のイベントによって、被災者がイベント慣れをしているように感じられるという点が気になった。もちろん喜んで下さっている方も多く、効果があるのだが、イベントの度に、お菓子が配られたり、有名人が来られたりすることにより、特に子ども達にとって、そういった物をもらえるのが当然になってしまっているような気がしており、少し心配だ。

2.8 ブリッジエーシア ジャパン (新石)

岩手県大船渡市・陸前高田市で配食活動を実施。大船渡市の方ではさんさんの会と共に行っているが、市が避難所にお弁当の配布を開始したため、同市では避難所への配食は終了。大船渡市ではさんさんの会が5月末より仮設入居者に対する聞き取り調査を実施しているが、現時点において20%程度が完了し、被災者のきめ細やかなニーズ(食事提供 or 食材提供を選択できるなど)に沿って、一日約400食を配食。

陸前高田市においては、同市のお弁当配布が夜に限定されているということもあり、避難所への配食も実施。昼に150食、夜に200食を配食。

また自治会が機能していない仮設住宅もあるが、自治会長を対象にアンケート調査を行い、必要な方を対象にした配食も実施している。

2.8 ホープワールドワイド・ジャパン ; HWWJ (平山)

宮城県亘理町DVCにスタッフ一名を派遣。

週末にボランティアを派遣し、南三陸町宇田津・亘理町長瀬地区での炊き出しを実施。

また障害者支援の一環として、障害者被災者の引っ越しの手伝い(大型家具廃棄含む)や、障害者の子どものお世話を、親の傾聴ニーズを満たすことを目的として実施。

現在、8月上旬の週末に亘理町DVCと実施する予定のお祭りを企画中。

2.9 シャプラニール=市民による海外協力の会 (筒井)

福島県いわき市で活動を進めている。

元々いわき市内にあったDVC三か所で運営協力をしてきたが、その内の一つはセンター機能を

終了し、現在協力中である残り二か所も今月から来月にかけて終了見込み。

その他としては、仮設住宅と一時提供住宅へ引っ越された方々に生活物資支援をしており、約950世帯に物資を提供。

また今後に向け、いわき市で支援活動をしているNPO、中間支援団体、社会福祉協議会（社協）、いわき市の協働での協議会の創設を働きかけているが、社協からその必要はないという答えを頂いており、その件は暗礁に乗り上げている状態。

放射能対策として福島県の他市町村がいわき市に避難されており、子ども達がいわき市内の学校へ通学するためにバスが運行しているが、夏休みには運休になるため、夏休み中の運行に協力をしてほしいという要望が寄せられており、検討中。

また、いわき市の現地で活動している職員6名の被ばく調査に関して、活動中に身に付けていた線量バッチを第三者機関にて計測したところ、5月末からの一か月での被ばく量は0.1ミリシーベルト前後ということで、第一回目の線量調査に関しては自然界で受けるのとはほぼ同程度であるという結果が出た。

先程JANICからの報告にもあったように、危ないということが言いにくい状況は変わらず、皆安全だと思いたいので、行政も含めて、どちらかというとな経済的な損失への懸念を表明する傾向が続いている。

《質疑応答・コメント》

・JVC（清水）：グッドネーバーズ・ジャパンからお話しがあった「イベント慣れ」の件は特に重要だと感じた。先月気仙沼で現地の若者と話した中で、地元商店が仮設住宅付近での販売を行った際に、仮設住人が「無償ではないのか」という風に仰って帰られたという事例を聞いた。援助物資が民業の圧迫になるという可能性も考慮し、地元産業の回復状況をしっかり把握しておく必要がある。

→JANIC 藤岡：一方で、仮設の入居者には資金や働き口がない人々もいる。

→JVC（清水）：その辺りの見極めが難しいところ。

3 意見交換ほか

3.1 企業CSRとの連携について

【JANIC 藤岡】

本情報交換会は、NGO間の情報交換を主な趣旨として行ってきた。企業も参加して頂き、企業とNGOが出会う場としてはある程度機能してきたかもしれない。ただ、JANICとして企業のCSR担当ないし企業からのオファーとのマッチングを目的とする場との意識ではなかった。今後、JANIC内部でも企業とNGOのマッチングをより積極的に後押ししてはどうかという意見が出ている。

例えば、先日グッドネーバーズ・ジャパンが主催されたCSR関係のシンポジウムは、第一部にグッドネーバーズ・ジャパン・旭硝子・ANAとの連携で成功したイベントの事例紹介。第二部では、CSRとNGO連携上のポイントの提示。第三部では、グッドネーバーズ・ジャパン、モヤイ、ホープワールドワイド・ジャパンの三つのグループに分かれ、そこに企業とNGOが入って、どのようなニーズに対してどのようなことがオファー可能か等、シミュレーション形式の意見交換が行われた。

JANICが実際にこの事例のような形式をとるかどうかは未定だが、まずはNGO側に企業とのマッチングの場へのニーズがあるか把握したい。そこでNGO側と企業側の両者にアンケートを取らせて頂こうと計画しているのだが、この場でもNGOや企業の立場から何か意見があれば伺いたい。
→ピースポート：ピースポートに関して言えば、連携・協力頂いた企業（地元商店等も含む）は、当

初の物資提供も数に入れると数百社に及ぶ。最近では、社員のボランティア派遣を請け負うことが多く、1,000名以上を石巻へ派遣。全体的にみると、企業の申し出は減ってはいるが、今後長期的な取り組み（来年三月を見越したイベント実施の企画等）に関心のある企業はある。NGO側でもどのようなことができるのかを用意しておけば、新たな連携活動を進めていけるだろう。

→JANIC 藤岡：JANIC 渉外チームでも社員ボランティアの派遣希望は大きいですが、それ以外の面で長期的に復興支援に関わっていきたいと考えている企業もある。ただお互いに、企業はNGO側のニーズが、NGOは企業との連携によってどのようなことが可能になるのかといったことが、見えていないように思われる。

→ピースボート（合田）：補足として、社員ボランティア等の団体ボランティアを預かるとなると、安全確認にどれだけ力を入れるかポイントになる。ピースボートでは、安全面指導専門のスタッフがおおり、どのようなヒビが入っていると倒壊の危険性が高いとか、具体的な専用のレクチャーを各チームのリーダーが受けるようにしている。

→JANIC 藤岡：今まで1,000名程度社員ボランティアが派遣されたということだが、どのような活動をやって頂いたのか。

→ピースボート（合田）：短期間で地理感覚がなくてもできる点等を考慮して、主には清掃活動（今後は石拾いも）を行ってもらっている。

・HWWJ（平山）：規模が小さく資金的にも限界のある団体にとっては、お互いのニーズの企業との出会いの場は大変ありがたい。資金やマンパワー不足が障害となって実現不可能になる部分を、企業からのサポートによって打開でき、できることが増えると予想される。団体側から直接働きかけるよりも、第三者に場を用意してもらう方が情報量も増え、大きく物事が進むと考えられるため、活用させて頂きたい。先日参加したグッドネーバーズ・ジャパン主催のシンポジウムにおいても、亘理町で開催予定のイベントについても、企業側から多角的な意見を頂き、固定観念を外され学ぶ部分があった。

・グッドネーバーズ（東江）：情報交換やマッチングの場を設けてもらうのは、NGO側としてはありがたいが、企業が今後CSRとして東北支援を行うにあたり、どれほどの熱が残っているのかは不明。しかし、未だにどのNGO/NPO団体を支援すべきか決めかねている企業も意外とあるのではないかと印象を受けており、それを考えると連携の可能性は残っているのではないだろうか。資金提供一つをとっても、企業は自社理念やCSR方針と照合し、方針がマッチするNGOと連携した方が良いでしょう。一方、NGO側の方針等は企業に行き渡っていないと考えられるため、そういった情報提供を補う場としても活用できるのではないかと。

・ADK（河中）

広告会社であり、宣伝部と接する機会が多いのだが、当初に比べて純粋な無償支援に関する企業の情熱は引いてきているように思われる。最近では寄付や無償の活動というよりも、大規模なイベントや企業PRをやりたいというケースが増えている。

これは今般の震災のみならず日頃からの企業CSR活動に言えることだが、NGOとの付き合い方が分からない企業が多い。インターネットの検索で出てきたNGOにすぐ電話をかけても良いのかどうか、どこまで相談にのって頂けるのかも話してみなければ分からず、かといって話してしまうと引けないし、というのが現状であるように思う。

当社としては、企業の協力を募っているNGO団体のリストを作って頂いて、広告業界として企業に紹介することでもお手伝いできる。一方で企業側もどのNGOに援助するか躊躇しているという現実を踏まえると、リストを渡したところですぐに希望のNGOを選んでもらえるとは限らず、例

- えば何らかの形で活動フレームを作るか、保証等を設ける必要も出てくるかもしれない。
- JANIC 藤岡：実施に当たっては、リストや Web サイトで見ただけでは分からないことを理解できるような仕掛けのある場を作りたい。
- AmeriCares（櫻井）：企業側としては、無償の活動というよりも企業 PR に繋げていける活動を希望するということが、NGO 側も団体の方針と企業理念とを結びつけて選ぶ必要がある。
- JANIC 藤岡：NGO にも方針があるため、どのような企業と連携すれば双方に望ましいマッチングになるかということも検討しつつ、パートナーを選ぶ必要はある。以上のような率直な意見も踏まえて、後日 JANIC から改めてアンケート調査にご協力願うので宜しく。また、次回交流会で取り上げたい議題等あれば、事前にご連絡願う。

3.2 その他

【JANIC 藤岡】

Softbank から貸与している携帯電話に関して、追加貸与を受けたため、現在でも 10 台前後を貸し出し可能。貸与の期限は来年 3 月末まで。

■次回 第 16 回東日本大震災 NGO 情報交換会

8 月 2 日（火）15 時～17 時、早稲田奉仕園アバコビル 6 階スカイラウンジ

別添 注意喚起 被災地での交通事故を防止するために

- 1 NGO 情報交換会 宮城県、岩手県（大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市）、福島県情報シート
- 2 JANIC 拠点に関してのお知らせ
- 3 震災支援者のためのスキルアップ講座ちらし

第 15 回東日本大震災 NGO 情報交換会 出席者リスト

	団体名	出席者(敬称略)
1	日本国際ボランティアセンター(JVC)	清水 俊弘
2	日本国際ボランティアセンター(JVC)	山崎 哲
3	AmeriCares	櫻井 杏子
4	AmeriCares	Ramona BAJEMA
5	シャプラニール=市民による海外協力の会	筒井 哲朗
6	(株)アサツー ディー・ケー	河中 裕哉
7	(独)国際協力機構(JICA)	平田 悦子
8	(独)国際協力機構(JICA)	柴田 真希
9	東京英語いのちの電話(TELL)	大滝 涼子
10	ピースポート	合田 茂広
11	ブリッジエーシア ジャパン	新石 正治
12	グッドネーバース・ジャパン	東江 菜の葉
13	ホープワールドワイド・ジャパン	平山 涼子
14	国際協力 NGO センター(JANIC)	東京:山口・藤岡・難波 福島担当:竹内